

HO YOG

教区新報

1988.9.14号

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
〔編集〕教区基推委広報部

発行所



熱心に聞き入る寺族婦人たち

(神戸別院で、第一回の連続学習会)

「私と同じような悩みを」

寺族婦人連続学習会に出席して

寺の行 円
木々佐 佐

兵庫教区初めての寺族婦人連続学習会が七月二十八日(木)開催された。神戸別院に百四十三人が、猛暑のなか参加。

育っていくのに、坊守だけが取り残されるのではないかと、この学習会の運びとなったもの。開会式では森本美栄子委員長が「時代や社会がいく

ら変わっても、お念仏の心は変わることはありません。若い坊守さんのなかには、ご住職の後から顔を出し、私には「わかりませんから、ご院さんに聞いて下さい」と、いっていただければよい時代は終わりました。これからは、もっと坊守としての自覚が

必要です。この学習会を受けたらと、すぐに変わるものではないですが、これを機に、なににも変わることをないお念仏をいただく」と話されました。

以下は、佐々木加代さん(阪神北組円行寺坊守)が寄せられた感想です。「言葉について」の講義では普段気にもとめない基本的な事柄で、改めて言葉の響きの大切さをお話し、少しでも生活の中に生かすなくてはと思い、新たにいたしました。

分科会では私と同じような悩みを話された方があり、内心ホッとしました。私共は戸数三十戸ほどの地区なので、どのような会にも同じ人が参加していることになり、学校や家族の身近な話題が多く、時々これだけのだろうかと、もつと視野を広げなくてはという焦りと、自分の至らなさを感じつつ、日々の生活に流されておりました。話し合いです。今のままでもいいではないか。とにかく私は坊守だ、という意識を捨て、みんなと一緒に、真面目に考え、悩み、歩んでいく姿勢が大切である」という意見が、聞いていて肩の荷が降りたような気がしました。

何より嬉しかったのは、年配の坊守様が若い人の話を暖かく聞いて、意見を述べて下さったことで、このような雰囲気ならば恥ずかしがらずに何でも話せよう。次回が待ち通しく思えたことでした。



宗門では御同朋の社会的実現をめざして基幹運動を進められている。

教区では基本計画が策定され、年次別にその運動が推進されてきたが、ここ一、二年(一部を除いて)どうも停滞中ではなからうか。またあなたもその足を引っ張るような出来ごともある。教化センターから、問題、組画変更のしこり、差別問題、寺檀紛争等々。

◆これら多くは、任職の姿勢がきびしく問われている。この「問題解決行動」こそ、実は基幹運動そのものである。早期解決が望まれる。折も折、教区では七月に、小滝所長さんをお迎えした。「地についた仕事をいたしたく、急ぐべきは急ぎ、慎重に宗務をとるべきだと考えている」と抱負を語られ、着任早々より問題解決に奔走されている。◆今こそ教区は力を結集して所長の熱意に応えるべきである。ことに組長や組相談員の責務は重い。基本計画の完遂に向け、大いに尽力することを組長のひとりとして自覚を新たにされるものである。

(山本宣昭)

教区だより 9月

1日(木) 全国寺族青年野球大会 推進員連絡協議会役員会 午後1時半	滋賀・守山 神戸別院	13日(火) 総代ブロック研修(東播ブロック) 講師 富永真哉師(中央相談員)	播磨中組光宗寺
2日(金) 広報部会 午後5時	神戸別院	14日(水)~16日(金) 別院常例、丸岡賢彰師(播磨東組極楽寺)	神戸別院
5日(日) 教区基幹運動推進委員会	神戸別院	18日(日) 千鳥ヶ淵戦没者追悼法要	東京・千鳥ヶ淵
6日(火) 勤式練習 午後4時半	神戸別院	22日(木)~24日(土) 別院彼岸法要、高橋事久師(大阪・大島北組)	神戸別院
7日(水) 別院仏婦常例、多田満之師(赤穂北組西光寺)	神戸別院	27日(火) 基幹運動推進委員研修会	神戸別院
8日(木)~9日(金) 近畿ブロック寺婦研修会	神戸・舞子ビラ	28日(水)~29日(木) 教区寺族婦人聞法旅行	岡崎別院・明治村
12日(月)~13日(火) 青年僧侶の会一泊研修会	京都・伝道院	29日(木) 総代ブロック研修(岡山ブロック)	岡山南組光清寺

仏壯の意気

◆8月1~3日 教区サマースクール。三十五人参加、出石組勝林寺で。名物出石そばの早食い大会も行われた。(写真)



「楽しかった三日間」

一、二日、なんという短い時間だったのだろう。その中で一番に残ったのが正座だった。もう足が痛くて、しびれて、立てなかつた。このごろ日曜学校で正座してなかつたから、足がなまっていたのか。それとあの朝の寒さ。もう寒くて寒くて、カゼをひきそうにな

った。ラジオ体操のあとのあの朝のおつとめのつらさ。あの正座と寒さの二だんこうげきはつらかつた。でもあとは、楽しかったのよかつた。室内オリンピック一位、ウォークラリー二位この二つはよかつた。でも食べ物オリンピック……。五位だったなせなの。まあ総合ならいい線いくんじやないかと思う。

友だちが、いっぱいたくさんふえた。中には、正座が平気だという、パケモンみたいな人もいた。またいきたいと思う。それにしても賞品が、なかつたのでかなしい。

◆4日 企画推進室会議。六十三年度の運動計画と下半期の活動について。◆5日 広報部会、教区新報十三号の反省など。少しづつ良くなって行きたいが、広報予算が少なすぎる」との声も出る。◆7日 神戸別院で仏壯ブロック別院研修会。阪神神戸から百二十人参加。講師は山崎一朗師(出石組正福寺)。午後の分科会では「仏壯がいるんだとの認識を任職に持ってもらいたい」との発言。

◆7日 別院仏婦常例。講師津川肇師(城崎組明元寺)「いいご縁でした」とお

生前のご苦勞を偲び

謹んで敬申の意を表します。(敬称略)
神戸東組光円寺前坊守
四茂野ハギノ 8月23日寂
網干組教円寺住職
中田 良進 8月12日寂
佐用組円徳寺前坊守
小畑茂登代 8月15日寂

同行◆8日 寺婦委員総会、別院で委員二十六人出席。近畿ブロック研修の役割分担と、先に開催された連続学習会の報告、反省などについて話し合う。◆9日 仏婦委員総会、委員三十五人、企画委員五人で、来たる十一月十八日、教区仏婦三十年に向けて。◆20日 21日 本山で全国真宗青年の集い。教区より五十三人。模擬の仏前結婚式が行われ「私も必ず仏前でしたいがまず相手をと」と、一参加者。◆21日 仏壯ブロック、氷上東組本明寺で、二百四十人の参加者で、本堂からあふればかり。

寺報から

毎日、好奇心一杯に
☆本堂儀式用椅子二十脚が揃いました。
数森三男氏の永代経の悲志です。これで仏前結婚式の設備が整いました。はやく

事務局からお願ひ 教区新報に身近なニュースを寄せて下さい。娘が結婚したとか、新発意が交通事故にあつたとか、おばあちゃんの米寿のお祝いをしたとか、寺院のなかのくらしを伝えたいと思つています。「寺報」も発行されましたら、送って下さい。紹介して行くつもりです。

彼岸の法話

お浄土という鏡

久堀 弘義

「暑さ寒さも彼岸まで」ということわざは日本の風土の中から自然に生まれてきたものでしょうか。うだるような日本の夏の暑さも秋の彼岸を迎えるころになりますと、そこはかとなく涼風が立ち、なにかほっとした思いを感じます。

彼岸ということの深い仏教的な意味がいつの間にか薄れてしまつて、ただ季節感だけが私たちの心の中に残っているのも無理からぬことでしょう。

けれども、ある一面には「お墓参りの日」「先祖供養の日」と心得て、お墓に参ることだけで彼岸の義理をすませたという満足感にひたっているのも日本人の平均的ですがたでもありません。せっかく身についてしまった彼岸ですから、この辺で一度「彼岸とは？」と問うてみるのも無駄なことではないと思うのですが、いかがでしょうか。

彼岸にはかなり古い歴史がありますが、それはともかく、その意味にはお釈迦さまの教えの基本にかかわる大切なものがあります。仏教は人生を生きるテクニクを教えるものという考えかたや、道徳を守るための手段と

心得てみたり、まだ、これは少しましな方で、ひどいのは自分の欲望を満たすための手段と心得たりしています。



本願寺「カット集」から

これは全く仏教にはかわりのないことです。仏教の基本はあくまでも転迷開悟であり、私の迷いを転じて悟りを聞くということです。だから親鸞聖人も「本願を信じ、念仏もうさば仏に成る」と述べておられます。

彼岸とは「迷いの世界である此の岸」に対して「悟りの世界である彼の岸」をいうのですが、正確にいきますと「到彼岸（彼岸にいたる）」ということですが。これはサンスクリットの「パーラミッタ（波羅密）」を翻訳した言葉です。

また、「度」と訳されていますから、「悟りの彼の岸に渡る」ということです。だから「六波羅密」とか「六度」とかいつていますのは「彼の岸に渡る六つの道（布施・持戒・忍辱・精神・禅定・智慧）」を指示しているのです。私たちは彼岸にいたる道はただ一つ「本願を信じ、念仏もうさば仏に成る」といっていいだけの事です。彼岸であるお浄土に往生することは、すなわち、仏に成ることですから、彼岸とは「凡夫である私が仏として生まれかわらせていただく世界」なのです。

「無量寿経」をただかかれた天親菩薩は「世尊我一心・帰命尽十方・無碍光如来・願生安楽国」と一心に彼の岸を願生されました。經典に諄々と説かれる浄土、「ひかりのくに」「まことのくに」「さとりのに」として説かれる浄土に、限らない憧憬とせつなる願いをこめて「世尊我一心」と告げておられます。

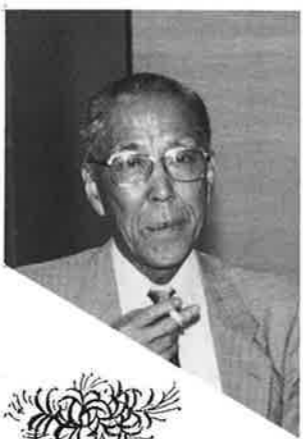
「督の詞なり」と述べられたのですが、「督」は「勸なり、率なり、正なり」と註をつけておられます。ともすれば頭をもたげる怠けごろにむちうちながら、自らを「ススメ、ヒキイ、タダシ」ていかれたということでしょうか。

天親菩薩にとって自督しながらも、切に願わずにはおられなかつたお浄土を、明らかにされていますが、二十四行・九十六句からなる「願生偈」です。そのうち浄土の莊嚴二十九種の総相なりと示されるのは「清浄功德莊嚴（観彼世界相・勝過三界道）」です。

曇鸞大師は浄土がなぜ清浄なる世界として

莊嚴されなければならなかつたかを、次のように説いておられます。

この世界を見れば虚偽の相であり、輪転の相であり、また無窮の相であり、ちようど尺とり虫が同じところをぐるぐる回って



今、ハワイから帰つてき腫で見た時、これまで私がた。研修前の私と、今の私とでは、違う。大げさにいえば、成長して帰ってきたと思う。本当にこの研修に参加してよかった。ハワイに行けてよかったと、つくづく思う。いろんなものを見るのができた。いろんなことを聞いた。たくさんの人達とのあたたかいふれあいがあった。友達がいっぱいできた。すべてのことに恵まれた。素敵なキラキラした思い出ができた。多分、一生忘れることができないような、楽しいことも体験できた。それなりに学び勉強もできた。

阪神西組リーフ
レットが11号に
小玉住職がNTT
T依頼で法話

美方郡浜坂町・国正寺の
小玉大誠住職（五三）は、
NTT浜坂支局の依頼で3
分間スピーチを吹き込み、
現在「心のお話・私生きて
ます」テレホンサービス
（☎0796812115
00）として流されている。
これは「人生に悩む人に、
何らかのヒントを得てもら
えば」と、同支局が企画し
たもので、小玉住職は「合
掌のすすめ」「開法のすすめ」
など、ことし十二月末まで、
三十回にわたり教えに基
づく話をする。

今、お寺で



ハワイ研修に感動

明元寺の津川さやかさん

高校生を対象とした青年国際研修団が、今年も行われた。六十二年度から三年計画で、毎年百四十人が、カナダ・北米・ハワイの各開教区に分かれて派遣される。教区から昨年は十八人、今年も十三人が参加。海外の真宗門徒との日常生活とともに体験。

このホームステイを通して、あらためて「仏の教え」に生かされる生活の大切さ

と不安に変わっていた。

城崎組明元寺
高校一年・津川さやか
（相談員・菅 義仙）
（本願寺新報から）